

茨城県行方郡玉造町

玉 造 城 跡

— 急傾斜地崩壊対策事業に伴う調査Ⅱ —

1 9 9 1

玉造町教育委員会

はじめに

武士の時代といわれる中世の遺跡を調査研究することは、考古学史上近年富みに盛んになって参りました。これも大規模開発の進行によるものと思われます。今まで城館跡のように大きな縄張りを持つ要害の地は開発されにくい場所であったはずなのですが、その残された自然と大地が格好の開発ターゲットになってしまったのです。

当町においては、城館跡の位置する地域のほとんどは住宅街が背にする台地ということもあり、幸いなことに乱開発の手から守られています。しかし、城館跡特有の急傾斜地の下には人々が生活するため、その土地もいつか崩壊するかもしれないという危険にさらされているのが現状です。

今回実施されました調査は、昨年度行われた茨城県急傾斜地崩壊対策事業工事による玉造城跡の事前発掘調査の継続で二期目のものです。

また、この調査と軌を一にして、玉造城が佐竹氏に滅ぼされ、最後の城主玉造与一太郎重幹が没して400年の節目に当たることから、平成3年2月9日には一閑寺において追善供養がしめやかに挙行されました。教育委員会でも特別企画として連続歴史講演会を開催し、戦国期の玉造地方の歴史について学びました。

調査に当たっては、開発事業主体者である茨城県銚田土木事務所のご理解とご協力を得て進めることができました。また、発掘を担当いただきました湯原勝美先生並びに特段のご協力を賜りました地元の皆様にも、心より感謝申し上げご挨拶といたします。

平成3年3月

玉造町教育委員会

教育長 渡 邊 正 則

例 言

1. 本書は、玉造城帯郭Ⅱに関わる急傾斜地崩壊対策事業に伴う内宿地区の緊急発掘調査の報告書である。
2. 調査は、玉造町教育委員会が主体となり、玉造町遺跡調査会（会長 並木亨）が山武考古学研究所に委託し、平成2年9月3日から平成2年9月8日まで実施した。
3. 調査区は、茨城県行方郡玉造町甲4532、甲4528番地に所在し、調査実施面積は46㎡である。
4. 発掘調査は、山武考古学研究所 調査研究員 湯原勝美が担当した。
5. 本書の作成については、第1章を高埜栄治、第2章以下を湯原が執筆・編集を行った。遺物実測及びトレース等は松田政基の協力を得て伊藤順子が行った。
6. 玉造城内の名称については、「行方郡玉造城跡本丸発掘調査報告書」（1990.3玉造町教育委員会）に基づいた。
7. 調査にあたっては、玉造町教育委員会をはじめ各関係諸機関に御指導と御協力を賜った。また、土地提供及び調査上の便宜を図って戴いた額賀豊、甲久雄の両氏には格別の御協力を賜った。
8. 出土した遺物については、国立歴史民俗博物館、小野正敏助教授の御助言を戴いた。記して感謝の意を表したい。
9. 調査に関わる図面・写真・遺物は玉造町教育委員会に保管してある。

発掘調査組織表（敬称略）

事務局	教 育 長	渡 邊	正 則
	教 育 次 長	真 家	幸 治
	社会教育係長	中 田	邦 雄
	社会教育指導員	高 塚	義 夫
	社会教育主事	高 埜	栄 治
	社会教育主事	小 谷	和 弘
調査員	湯原 勝美（山武考古学研究所員）		
作業員	石川 吉夫	小島 清子	田澤 こと
	額賀 さみ	額賀 豊	原 喜代子

目 次

本 文 目 次

はじめに

例 言

目 次

第1章 調査の契機	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の経過	5
第4章 調査成果	5
第1節 調査の概要	5
第2節 遺 構	7
第3節 遺 物	9
第5章 ま と め	10

挿 図 目 次

第1図 玉造町の城館跡	2
第2図 玉造城跡位置図	3
第3図 玉造城縄張り図	4
第4図 トレンチ設定状況図	4
第5図 1号トレンチ実測図	6
第6図 2号トレンチ実測図	7
第7図 出土遺物実測図	8

表 目 次

表 1	玉造町の城館跡一覧表	2
-----	------------	---

図 版 目 次

図版 1	1	1号トレンチ調査前風景
	2	2号トレンチ調査前風景
	3	1号トレンチ遺構確認状況
	4	2号トレンチ遺構確認状況
	5	1号トレンチ完掘状況
	6	2号トレンチ完掘状況
図版 2	1	内宿地区遠景
	2	額賀宅氏神様
	3	1号土塚
	4	1号トレンチ北側土層断面
	5	2号土塚
	6	3号土塚土層断面
	7	3・4号土塚
	8	1号トレンチ南側土層断面
図版 3	1	1号土塚出土遺物
	2	4号土塚出土遺物
	3	遺構外出土遺物

第1章 調査の契機

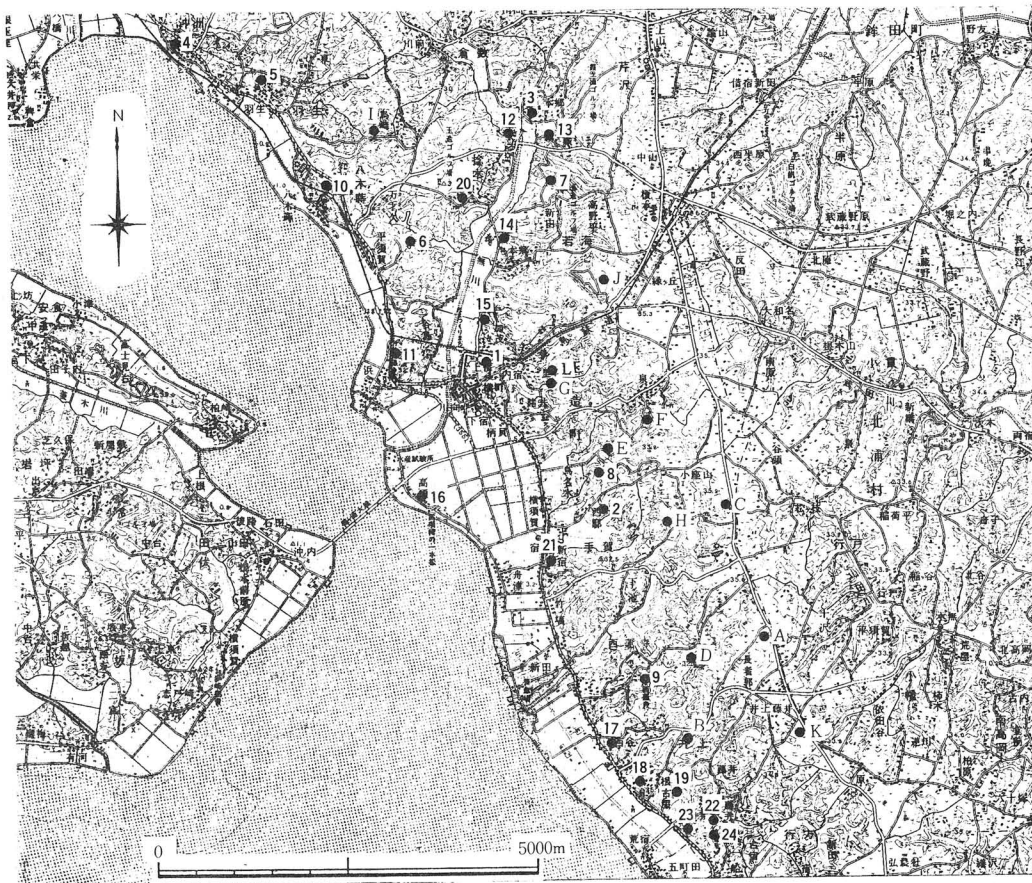
行方台地は良く平地林を残しているが、今回調査の対象となった玉造城跡も例外ではなく、郭の周辺を取り囲む形で常緑照葉樹が繁り自然のオアシスとなっている。特に城跡を包む形で傾斜地を覆っているのが特徴であり、根古屋地区の住宅地を自然の土留め作用で保護してきたのである。

しかし、こうした自然の力のみならず、将来的に城館跡特有の傾斜地の崩壊から住宅を守り生活する人々の生命を守る目的で、急傾斜地崩壊対策事業が推進されてきたのである。

玉造城跡における工事は平成元年度より開始されているが、玉造町教育委員会では、その工事の事業主体者である茨城県銚田土木事務所のご理解とご協力のもとに事前調査を行っている。その成果は、「玉造城跡発掘調査報告書～急傾斜地崩壊対策事業に伴う緊急調査」としてまとめられている。

今回調査が実施されることになった地域は、前回工事の延長部分が予定された箇所、南帯郭部分に係る台地斜面部分とその下の平地部である。昭和63年度以降数回にわたって工事に関する協議を繰り返し、傾斜地の台地を削平しない施工方法を取ることで地元と茨城県銚田土木事務所双方が了解したため、延長部分の調査については、傾斜地を測量による記録保存で、平地部分のみを発掘調査とした。

以上のような諸条件を踏まえ、平成2年6月6日に茨城県銚田土木事務所長から文化庁長官に土木工事に伴う発掘通知が出され、ついで玉造町教育委員会が主体となり発掘調査を実施する運びとなり、平成2年9月3日より調査に入った。



第1図 玉造町の城館跡

表1 玉造町の城館跡一覧表

No.	遺跡名	種別	時代	No.	遺跡名	種別	時代
1	玉造城跡	城館跡	鎌・室	19	右近館跡	城館跡	鎌・室
2	手賀城跡	城館跡	鎌・室	20	若常館跡	城館跡	鎌・室
3	芹沢城跡	城館跡	鎌・室	21	稲荷館跡	城館跡	鎌・室
4	沖洲館跡	城館跡	鎌・室	22	藤井平館跡	城館跡	鎌・室
5	羽生館跡	城館跡	鎌・室	23	諏訪館跡	城館跡	鎌・室
6	野口中館跡	城館跡	鎌・室	24	京ノ内館跡	城館跡	鎌・室
7	山鳥名木館跡	城館跡	鎌・室	A	井上長者館跡	城館跡	奈・平
8	小貫館跡	城館跡	鎌・室	B	井上廃寺跡	寺院跡	奈・平
10	塙館跡	城館跡	鎌・室	C	手賀長者館跡	城館跡	奈・平・鎌・室
11	箱根館跡	城館跡	鎌・室	D	戸羅度廃寺跡	寺院跡	奈・平・鎌・室(?)
12	蕨木館跡	城館跡	鎌・室	E	姥ヶ谷長者館跡	城館跡	※昭57 消滅
13	蕨館跡	城館跡	鎌・室	F	原遺跡	包蔵地	縄文～室町
14	原田館跡	城館跡	鎌・室	G	緑ヶ丘廃寺跡	寺院跡	奈・平・鎌・室(?)
15	石神館跡	城館跡	鎌・室	H	手賀廃寺跡	寺院跡	奈・平
16	高須館跡	城館跡	鎌・室	I	金久保遺跡	製鉄跡	奈・平
17	人見館跡	城館跡	鎌・室	J	金場遺跡	製鉄跡	奈・平
18	岡部館跡	城館跡	鎌・室	K	金六塚遺跡		※消滅
				L	薬師廃寺跡	寺院跡	※伝承のみ

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

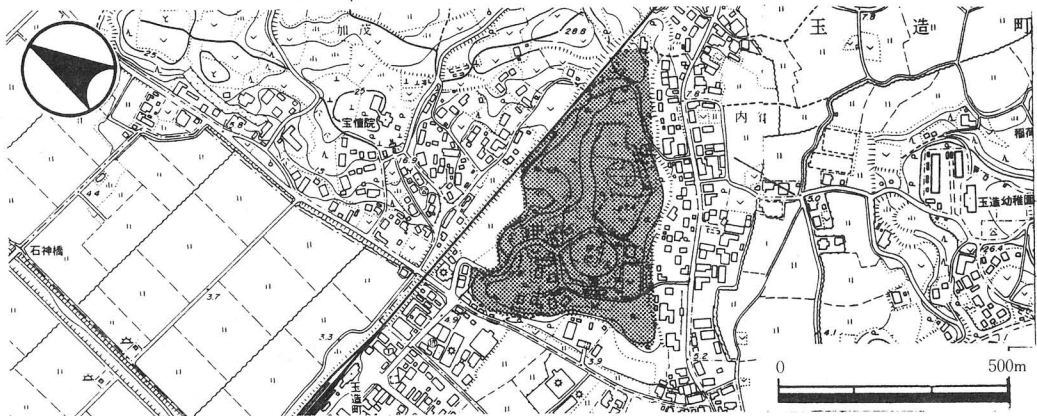
玉造町は茨城県の南東部、霞ヶ浦（西浦）の東岸に位置する。町域の大半は行方台地に属し北東部一帯は標高30 m前後の開析谷の発達した丘陵地となっている。霞ヶ浦湖岸沿いには600～800 m幅で带状に沖積地が広がり肥沃な水田地帯となっている。

玉造城跡は梶無川流域に面した東側台地の西端部に立地する。標高は20～27 mを計り、霞ヶ浦から対岸の出島村かけて一望できる位置にある。玉造城跡の南側には標高10～5 m程度の低地が広がる。調査区はこの玉造城跡帯郭Ⅱの南側斜面下の内宿地区に所在する。

第2節 歴史的環境

ここでは主に歴史時代以降の遺跡について概観する事としたい。奈良・平安時代の遺跡としては、緑が丘廃寺跡(G)・手賀廃寺跡(H)・井上廃寺跡(B)・手賀長者館跡(C)などが知られている。これらの遺跡は、いずれも未調査であるが、古瓦が表採資料として得られている。井上廃寺跡では、素文縁単弁六葉華文鏡瓦・素文字瓦が出土している。また、井上廃寺跡の北に位置する手賀長者館跡からは常陸国分寺系の鏡瓦・宇瓦の出土が知られている。

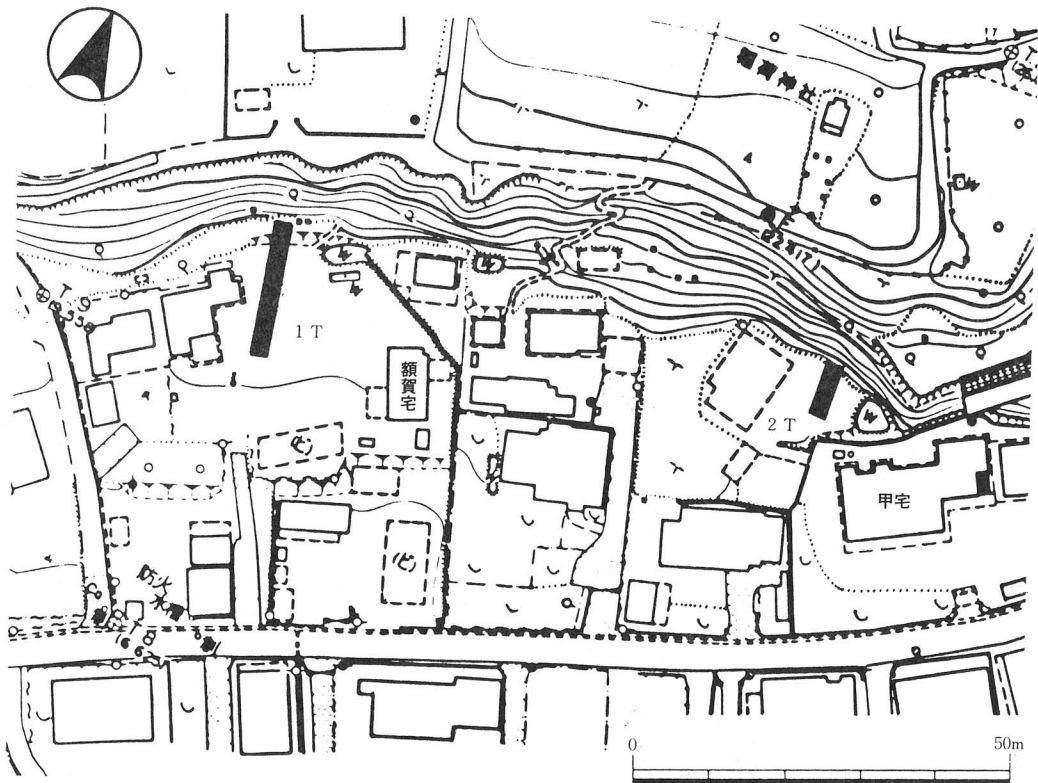
玉造城(1)は、中世を通して行方郡北西部一帯を支配した在地領主である玉造氏の拠点である。系図に拠れば初代玉造四郎幹政から、天正19年（1591）佐竹義宣により常陸太田で謀殺される与一太郎重幹に至るまで歴代15人の城主が交代している。玉造氏について記された史料は少なく、築城時期についても明らかにする史料は残っていない。「鹿島大使役記」等の史料からは、13世紀前半代には玉造氏がこの地に城館を構えていたものと推測されるが、平成2年1月に実施された本丸の調査ではこの時期に遡る資料は得られていない。ほかに、町内における中世の城館跡は20数カ所をかぞえるが、これらについては第1図・表1を参照されたい。



第2図 玉造城跡位置図



第3図 玉造城縄張り図



第4図 トレンチ設定状況図

第3章 調査の経過

- 9月3日 調査開始。1・2号トレンチを一部斜面に掛けて設定する。2号トレンチ表土除去を人力にて行う。
- 9月4日 1号トレンチ表土除去を重機にて行う。2号トレンチ遺構確認作業終了。コンクリート塊を含む攪乱坩数ヶ所を検出。
- 9月5日 1号トレンチ遺構確認作業終了。土坩と共に攪乱坩多数を検出、複雑な様相を呈する。2号トレンチ掘り下げ。溝2条を確認するが覆土の状況から整地した際に掘り込まれたものと思われる。同トレンチ内サブトレンチ設定、土層堆積状況の観察を行う。
- 9月6日 1号トレンチ掘り下げ。2号トレンチ平面図・土層断面図作成、全景写真撮影。
- 9月7日 水準測量及び座標測量。1号トレンチ全景写真撮影。
- 9月8日 1号トレンチ平面図・土層断面図作成。地形横断面図作成。1・2号トレンチの埋め戻しを一部重機を使用して行った。調査終了。

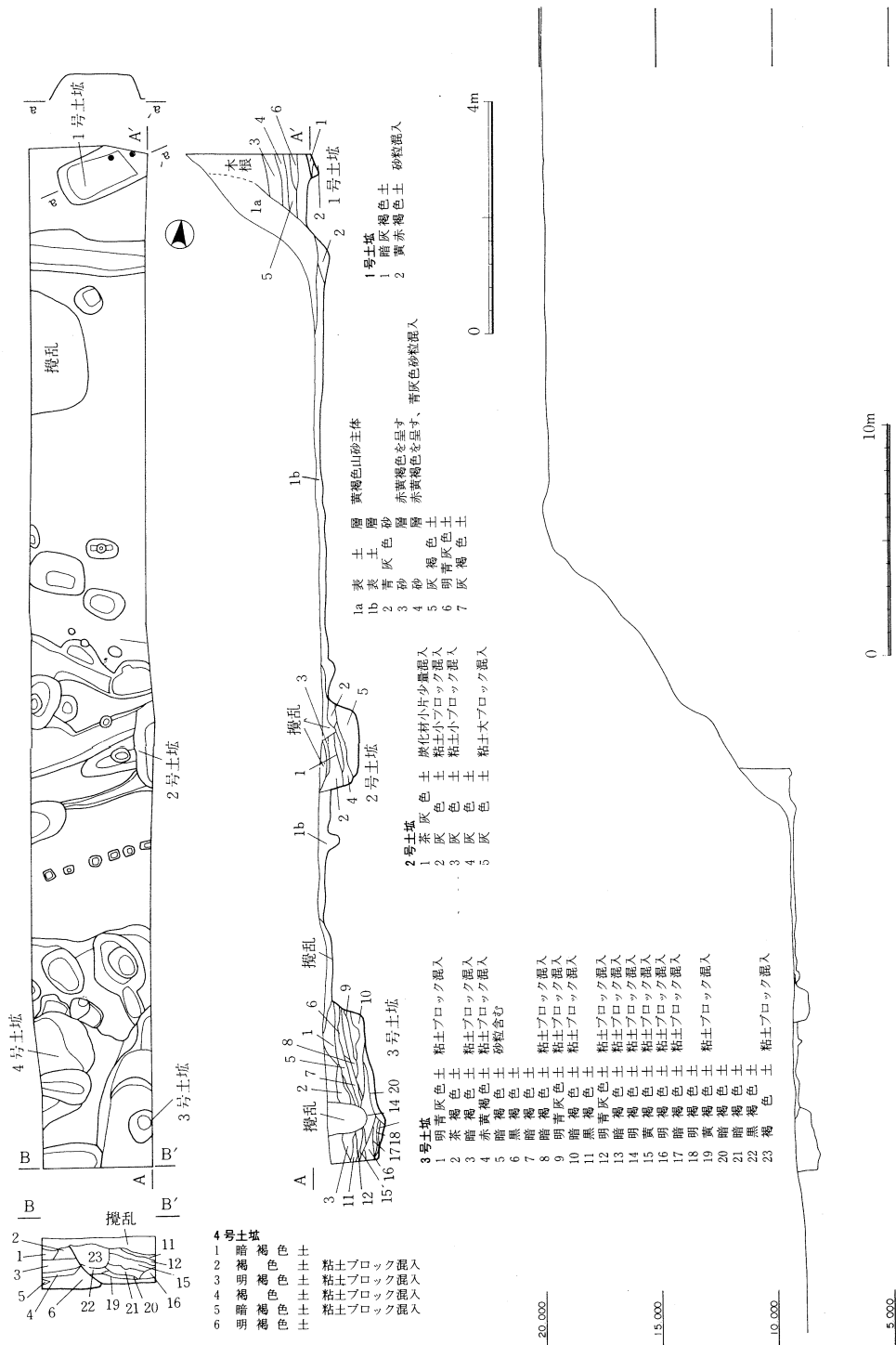
第4章 調査成果

第1節 調査の概要

調査区は帯郭Ⅱの南側、内宿地区にトレンチ2ヶ所を設定して行った。遺構・遺物共に検出されたのは1号トレンチのみで、2号トレンチからは検出されていない。

1号トレンチは玉造町甲4532、額賀豊氏の敷地内に設定して調査を実施した。現在は庭として使用されているが、それ以前には、木造家屋及び畜舎が建てられていたとの事で、近・現代の所産と思われる攪乱坩が多数見受けられる。遺物も中世の陶磁器片に混じって近世後半期の遺物数点が検出されている。表土層直下に青灰色シルト層が堆積する。遺構確認はこの面で行った。土層堆積状況から、時期は明らかではないが、平坦な敷地を得る為に削平して整地が行われたものと思われる。

2号トレンチは玉造町甲4528、甲久雄氏宅の敷地内に設定した。トレンチは三ノ丸南腰郭の西側斜面下に位置する。現在は空地となっているが、昭和35年頃に一度削平して整地を行っており、昭和50年頃まで豚舎が建てられていたとの事である。削平は同じく青灰色シルト層まで及んでおり、豚舎建築時に生じたと思われる跡が残るのみで遺構・遺物共に検出されていない。



第5図 1号トレンチ実測図

第2節 遺 構

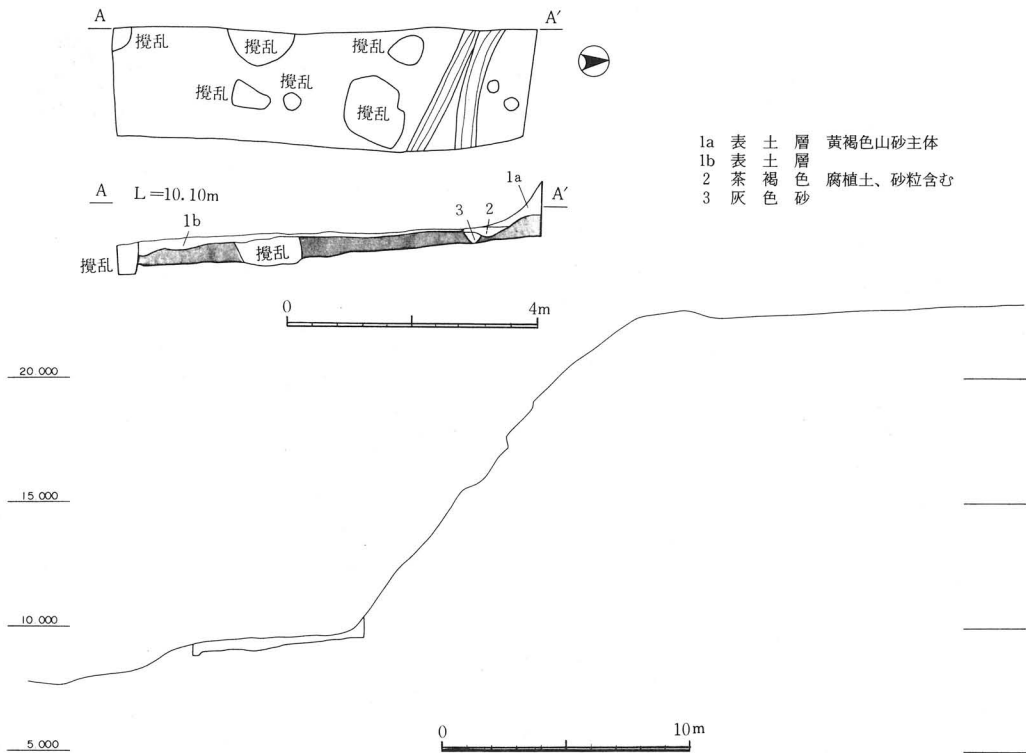
遺構は、1号トレンチで土坑4基が検出されているのみで、2号トレンチでは検出されていない。

1号土坑は覆土中より内耳土器1片、性格不明の木製品1片(第7図1・11)を出土している。遺物から玉造城の存続期に構築されたものと思われる。

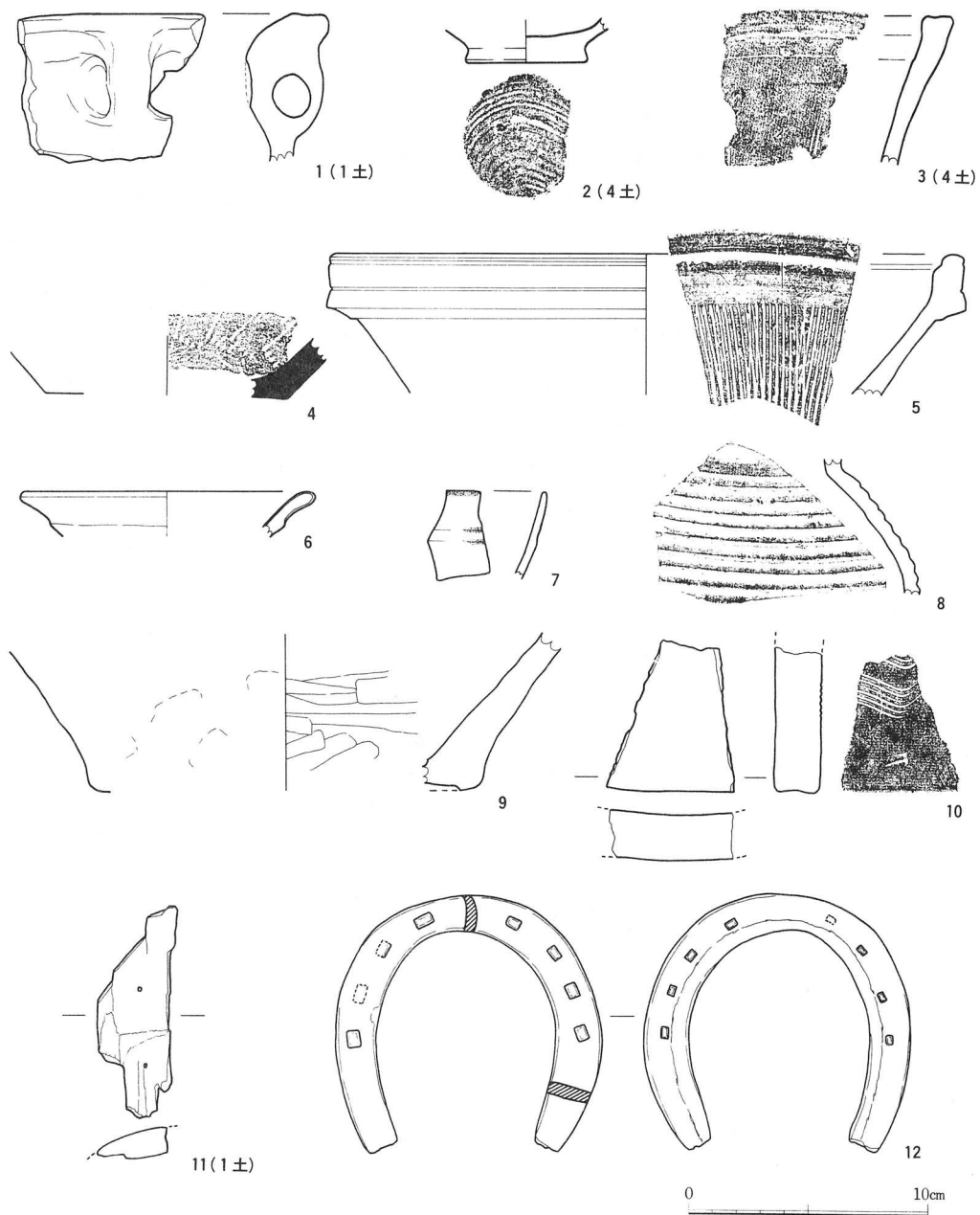
2号土坑は部分的な検出にとどまり明らかではないが、遺構内の堆積土層は北側(斜面側)から流れ込んだ状況を示しており、ここで見られる他の攪乱坑とは異なる状況にある。表土層の一部を切った形で掘り込まれている事から、時期は少なくとも整地後に掘り込まれた遺構であることが窺える。遺物は検出されていない。

3・4号土坑は部分的な検出ではあるが、比較的規模の大きな様相を呈している。調査区が限定され全容は把握できないが便宜上土坑として扱った。遺物(第7図2・3)は4号土坑の覆土上層より出土しているが、覆土上層は攪乱を受けており、遺構に伴うものかは明らかではない。3号土坑は4号土坑を切る形で掘り込まれている。

1号トレンチで検出した他の掘り込みについては近・現代の攪乱と思われるが遺構の可能性もある。調査区に限られ不明瞭な部分もあり、1号トレンチにおいては全て図化し報告する事とした。



第6図 2号トレンチ実測図



第7図 出土遺物実測図

第3節 遺物

1は内耳土器片である。口唇部は面を成し、胎土には木目細かい砂粒と若干の銀雲母を含み、色調は明橙色を呈す。焼成は良好で外面体部に煤の付着が見られる。

2は土師質の小皿片である。ロクロ成形で底部には糸切り痕を残し、ケズリ調整は認められない。底部は高台ふうに盛り上がって台を成す。胎土は木目細かく石英粒が混じる。

3～5は播鉢である。3は土師質で口唇部は面を成し内側に若干突出する。断面はほぼ逆台形を示す。条線は口縁部よりもかなり下から始まっている。4は須恵質で底部が薄く、条線は太い。磨滅が進んでいる。胎土は細かい砂粒と若干の銀雲母を含む。5は口縁部に沈線が2条はいり、内側口唇部に1条廻る。条線は密で口縁部のかなり上のほうまで入る。色調は橙褐色を呈し、胎土に長石粒が少量混じる。備前系と思われる。

6は美濃焼の灰釉小皿片である。内外に灰釉が施されており、外面体部の中位から下位は露胎となる。胎土は木目細かく色調は灰色を呈す。器形は折縁の高台付きタイプと思われる。

7は灰釉碗片である。内外に施釉してあり、口唇部及び外面体部の一部には鉄釉が施されている。胎土は木目細かく色調は乳白色を呈す。

8は常滑系の甕片と思われる。外面体部に断面三角状の沈線を施している。内外に鉄釉が施されている。胎土は長石粒を若干含み色調は青灰色を呈す。焼成は良好である。

9は甕又は鉢と思われる。内面は木口のナデ、外面体部には指圧痕が残る。胎土は砂粒を含み粗い。

10は瓦と思われる。櫛歯状の工具による波状の沈線が施されている。

11は木製品の一部である。小片であるが片面には削って成形した痕があり、小穴が2カ所穿たれている。性格不明部材である。

12は蹄鉄である。左右対称に8カ所の穴があり釘が入った状態である。

1～4は15世紀後半代から16世紀前半代、6は15世紀後半代の遺物とみられ、時期的に玉造城に関連してくるものとして捉えることができる。

5・7・8は江戸時代の所産とみられるが、他のものについては不明である。

遺物は全て1号トレンチより検出されているが、遺構に伴うものは少なく、そのほとんどは表土層中より得られている。

また、1号トレンチ北側の斜面上には額賀宅で奉ってある氏神様がある。これは五輪塔の空輪部分及び宝篋印塔の相輪の一部と見られる。平成2年1月に実施された本丸の調査においてSE01覆土中より五輪塔の笠石（火輪）及び宝篋印塔の笠石が出土している。このことから城内にあったものを、後年、氏神様として奉ったものと思われる。

第5章 ま と め

今回の調査は、玉造城跡の南側、帯郭Ⅱの急崖下にトレンチ2カ所を設定して実施したものである。調査で、遺構として捉え得たものは1号トレンチで検出された土坑4基である。1号土坑は、一部調査区外であるが、比較的しっかりした掘り方がなされており平面形は長方形を呈するものと考えられる。出土遺物から、15世紀後半代から16世紀前半代に構築されたものと考えられ、玉造城の存続期に帰属する遺構として捉えられる。検出されたのは、1号トレンチの最北端で、調査のため斜面の一部をカットした地点で検出されている。帯郭Ⅱとの比高差は約22mあり、1号土坑がこの位置で検出されていることから、当時の帯郭Ⅱは、現在よりも急傾斜で、より切り立った様相を呈していたことが分かる。また、土坑の性格は不明であるが遺物として内耳土器片が出土しているところから、なんらかの生活関連遺構である可能性がある。ほかに、2・3・4号土坑を検出しているが、時期・性格ともに明らかでない。また、遺構外で検出された遺構として、15世紀後半代から16世紀前半代の所産と思われる遺物を数点検出しているほか、江戸時代の遺物も少量検出されている。2号トレンチでは、現代の所産と考えられる攪乱があるのみで、遺構・遺物ともに検出されていない。今回の調査結果からは、当地区が、字名が示すような内宿あるいは根古屋といった機能を果たしていたことを確認するだけの資料は得られなかった。また、トレンチ調査の対象外であるが、1号トレンチの北側である帯郭Ⅱの斜面上に、額賀豊宅で奉ってある氏神様がある。これらは五輪塔の空輪部分、宝篋印塔の相輪の一部とみられる。平成2年1月に実施された本丸の調査において、五輪塔の笠石1点、宝篋印塔の笠石2点が検出されており、本丸内に旧永幸寺の寺域が展開していた可能性が示唆されている。今回額賀宅で確認された石塔類は、これに関わる遺物である可能性が高い。

玉造城は自然地形を利用した要害で、本丸・二ノ丸・三ノ丸が東西方向へ並列に配された連郭式の形をとり、三主郭を囲むように帯郭Ⅰ・Ⅱが一段低く配されている。また、帯郭Ⅱの南に一段低く突出する形で配された三ノ丸南腰郭は城下との密接な関係を窺わせるものとして捉えられる。この三ノ丸南腰郭、帯郭Ⅱの急崖下にあるのが根古屋・内宿の字名が残る地区である。今回の調査は、同地区に調査区を設定し、根古屋あるいは玉造城下の「まち」の出現期の問題、また、中世社会における城と城下との関係の一端を明らかにすることを目的に行ったものである。今回の調査は、46㎡と限られた範囲内で行われたこともあり、調査成果は報告の通り多くは得られていない。また、江戸時代に描かれた村絵図（大場家所蔵）にみる玉造城の周辺には、すでに多くの家屋が立ち並び、今日にまで至っている。このため、調査区には近・現代の所産と思われる攪乱が随所にみられた。

玉造城跡の周辺には、城下に類する字名がかなり残っている。今後の調査によってより明瞭な資料が得られることを期待したい。

参考引用文献

「行方郡玉造城跡本丸発掘調査報告書」1990. 3 玉造町教育委員会

「玉造城跡発掘調査報告書 急傾斜地崩壊対策事業に伴う緊急調査」1990. 3 玉造町教育委員会

『玉造町史』1985. 玉造町史編さん委員会

『玉造町字界地形図』玉造町史編さん委員会

『茨城県史料』中世編Ⅰ 茨城県



1. 1号トレンチ調査前風景



2. 2号トレンチ調査前風景



3. 1号トレンチ遺構確認状況



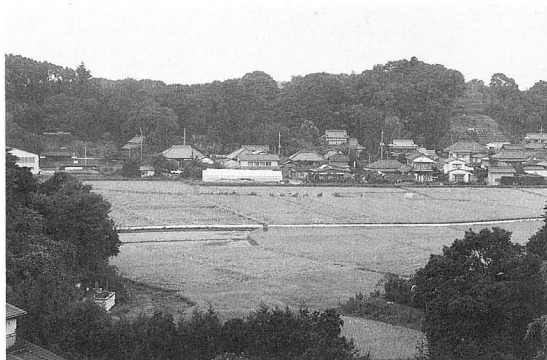
4. 2号トレンチ遺構確認状況



5. 1号トレンチ完掘状況 (北から)



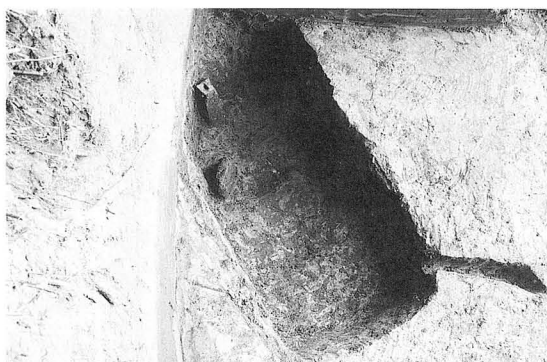
6. 2号トレンチ完掘状況 (北から)



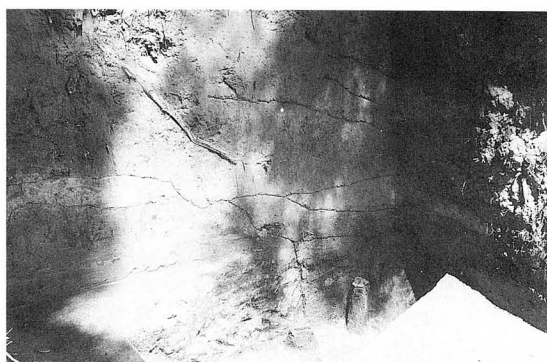
1. 内宿地区遠景 (玉造小学校屋上から)



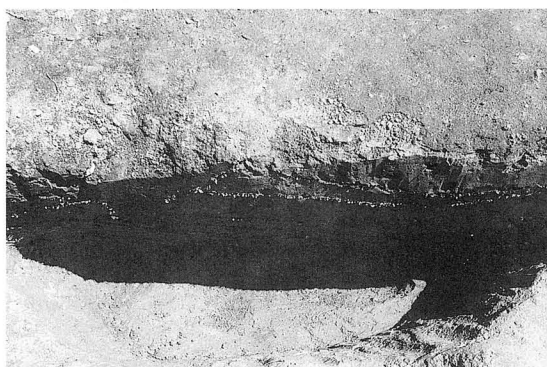
2. 額賀宅 氏神様



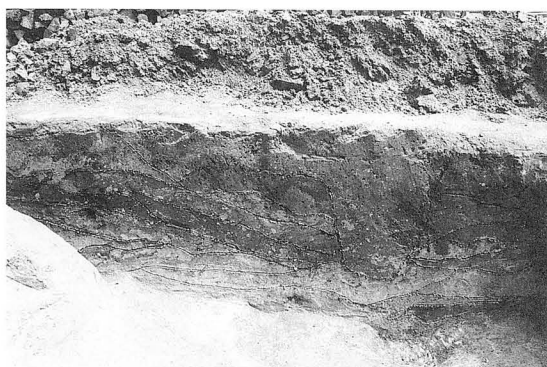
3. 1号土塚



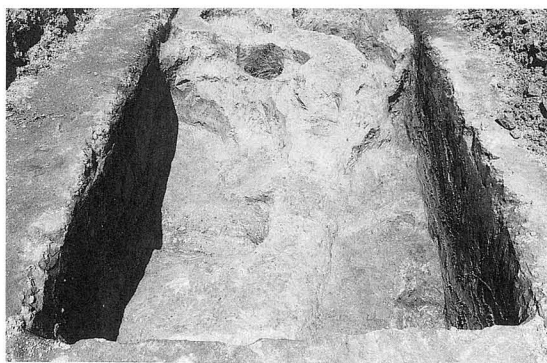
4. 1号トレンチ北側土層断面



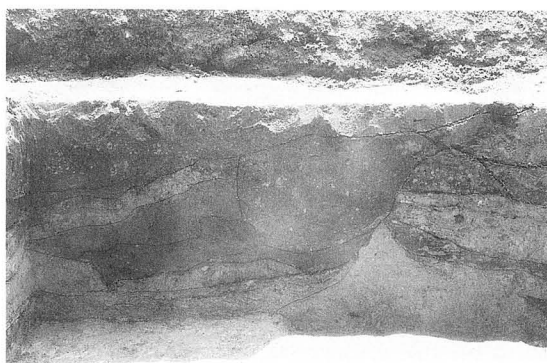
5. 2号土塚



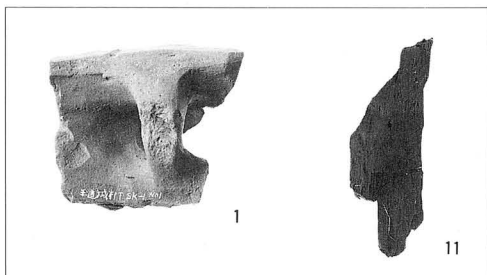
6. 3号土塚土層断面



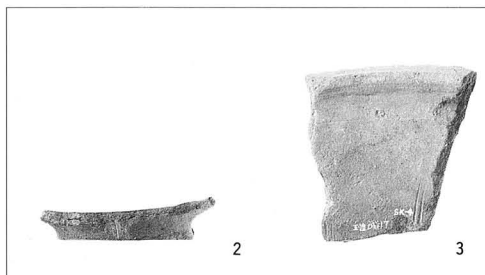
7. 3・4号土塚



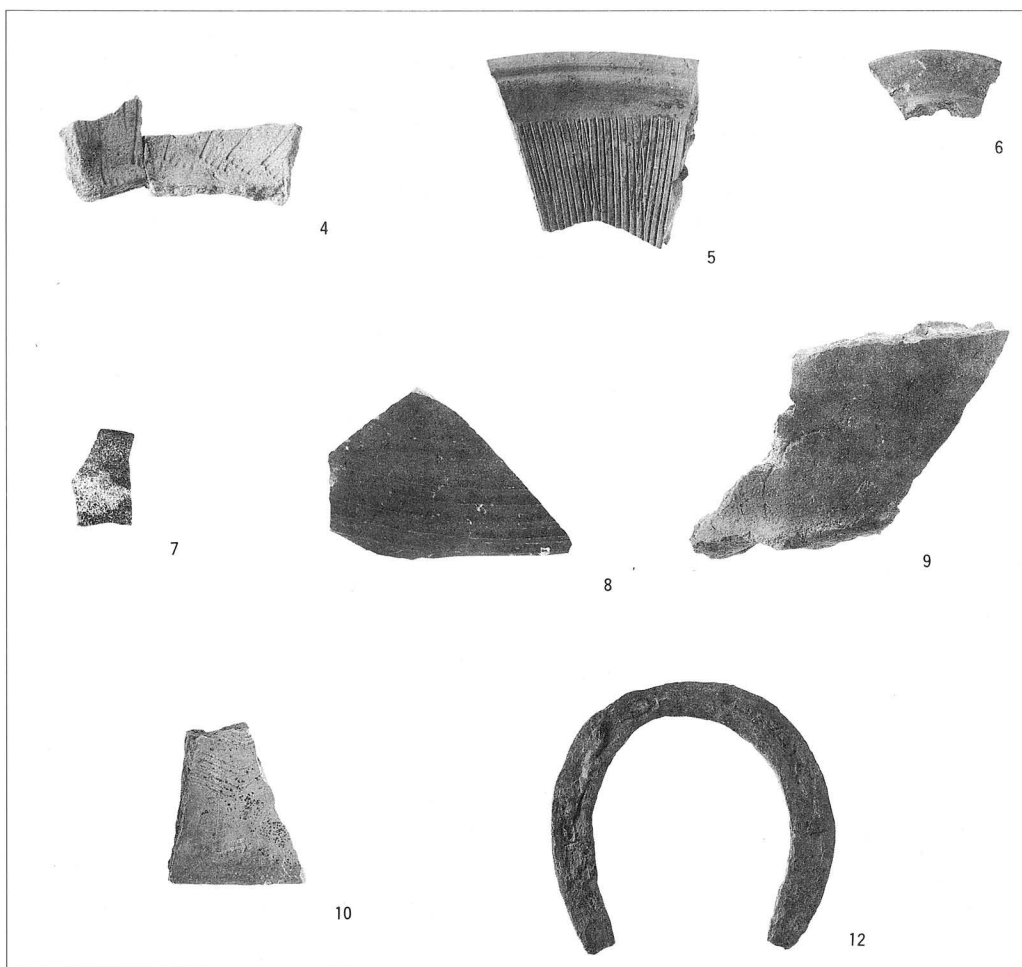
8. 1号トレンチ南側土層断面



1. 1号土坑出土遺物



2. 4号土坑出土遺物



3. 遺構外出土遺物

茨城県行方郡玉造町
玉造城跡
急傾斜地崩壊対策事業に伴う調査Ⅱ

平成3年3月31日 発行

編集 山武考古学研究所
発行 玉造町教育委員会
印刷 文化総合企画
